



日米口語辞典

勉強にはイイ辞書が必要である。現代文しかり、古典しかり、英語しかり。さらに、日本史や地理、生物や地学だって専門の辞典があるし、数学にも解法辞典をはじめ、多くの辞典がそろっている。そういうものをうまく活用すると、グッと勉強が楽しくなったりするものである。

*

最近買った面白い辞典は、エドワード・G・サイデンステッカー、松本道弘共編の『日米口語辞典』（朝日出版社、1977）。サイデンステッカーさんはアメリカ人の日本文学研究家で、『源氏物語』をはじめ数々の日本文学を英訳し、川端康成のノーベル賞受賞の陰の立て役者とも言われている人。松本道弘さんは、アメリカ大使館で同時通訳をしたり、NHKラジオ講座を担当したりしていた「英語の達人」の一人である。

さて、そもそもこの辞書を買ったのは、先週読み返していた福岡伸一さんの『生物と無生物のあいだ』（講談社現代新書）で紹介されていたからである。すでに絶版になっているが、ネットの古書店などで購入できる。（ちなみに、アマゾンだと1500円から）

「日米」のタイトル通り、いわゆる和英辞典に相当するもので、読んでいなくてもなかなか面白い。ただ、さすがに「口語」なので、英作文の宿題に使うとマズイのかも知れないが、O部先生やT浦先生の授業で、ちょっと試してみても面白いかも（笑）。一つだけ例を挙げてみよう。

▼めちゃくちゃ be all screwed up

「めちゃくちゃな状態」そのものを言うのであればchaos（混沌）とか total confusionでもよい。ただし「この文章はめちゃくちゃ」のような場合には使えない。このall screwed up は、日本語の「めちゃくちゃ」と同じく、文章や言葉、方法など、いろいろな場合に応用がきく。「この文章はめちゃくちゃだ」は This sentence is all screwed up. なお、utterly confused（支離滅裂な）も意味、使い方は同じだが、固い表現なので「めちゃくちゃ」の持つ俗語っぽい語感とはズレがある。その点、all screwed up はスラングであるから、語感もピッタリ。例あいつのやり方はめちゃくちゃだよ。ものごとをけっして論理的に進めないんだ。The way he does things *is all screwed up*. He never proceeds logically with anything.

*

使い方の解説もわかりやすいし、例文も面白くて応用が利きそうなものになっている。中にはこんな例文も登場する。

▼唾然とする be dumfounded

例友人の林が東大に入ったとき、教師たちは唾然とした。彼がそれほどできがいいとは思っていなかったのである。The teachers *were dumfounded* when my friend Hayashi got into Tokyo University. They all thought he wasn't very bright.

普段の会話の中で、うまく応用して使えそうじゃない？（笑）